



東益岡健寿会
かわだ ていいち
会長 川田 禎一 さん

青年会の皆さんにはいつも大変お世話になっています。この地区は世代を超えたつながりが本当に強いと思います。

最近では、青年会の皆さんもだんだん人数が減っている現状にあります。また、老人クラブの継続も難しくなっている地域もあります。その中でも、東益岡は若者も年寄りもみんなが頑張っていると思います。今後とも、お互いに支え合って地区を盛り上げていきたいと思います。私たちにできることは、いつまでも元気で健やかにみんなと仲良く過ごすこと。それが一番大事だと思います。これからも、できる限りの協力をしていきたいと思っています。



東益岡青年会
わたなべこうじろう
会長 渡邊浩次郎 さん

私たちが子どものころから支えていただいていた皆さんを、今度は私たちが支えていきたいと思っています。青年会も高齢化が進んでいますが、50歳を過ぎても青年会に残って一緒に活動してくれる方がいるのは心強いです。これからも、みんなの力で地区を盛り上げていきたいと思っています。次回も、皆さんが元気に参加していただけることを願っています。



1_昭和32年、小原温泉いづみやで行われた第7回敬老会（東益岡50年誌より）。貴重な写真が残っているのも地域のきずなの証し 2_生まれ育った地域だからこそ、世代を超えて築ける関係があります 3_60年の思い出を写真で振り返りました 4-5-6_皆さんの笑顔があふれていました



この日集まった青年会の皆さん

東益岡青年会

主な活動として、春まつりや夏のフェスティバル、秋は体育祭と敬老会、冬は夜警と、1年を通して地区の親ばくを因るために活動しています。特に夜警は、年末年始の約3週間、防犯・防災のために地区内を巡回し、今年で69年目を迎えました。

また、敬老会50周年を記念し、青年会が中心となり、地区の歴史を記した記念誌を平成14年に発行。地区はもちろん、白石にとっても貴重な財産となっています。



50年誌は地区の宝

地域のタスキをつないで60年

第60回東益岡敬老会

地域が縁で集まった方々のきずなは深くつながっている
そして、地域を愛する心は「未来」へタスキをつなぐ

The 60th Meeting to show Respect for the aged in Higashimasuoka Community

敬う心

12月5日、東益岡青年会（渡邊浩次郎会長）が主催する「敬老会」が中央公民館で開催され、同地区の老人クラブ「健寿会」の会員19人が出席しました。

1951（昭和26）年10月、第1回敬老会を福島県の岳温泉で開催。以後、毎年欠かすことなく開催されてきたこの催しは、今回で60回目という記念の年を迎えました。

同地区の敬老会には、多年にわたり地域のために尽くしてきた方々の長寿をお祝いすることはもちろん、地域づくりの苦労や喜びなどを先輩たちから伺うことで、今後の地域づくりに生かしていきたいという思いも込められています。

ともに楽しむ心

毎年、趣向を凝らした出し物などが披露される敬老会。今年は、60年の思い出を写真で振り返ろうと、これまで撮りためた地区の行事などの写真を皆さんで鑑賞しました。

50年以上前のまちの風景や春まつり、体育祭などの写真がスクリーンに映し出されると、当時を懐かしむ姿や隣の席の人と当時のエピソードを話す姿、目

つながる心

青年会の皆さんは、普段はそれぞれの仕事に就いています。もちろん、それぞれに家庭も持っています。それでも、忙しさの合間を縫って、今回の敬老会をはじめ、地区の行事などの準備を行っています。それは、「参加する皆さんも自分たちも一緒にになって楽しみたい」という思いにほかなりません。誰にやらされているわけでもない、自らが進んで取り組んでいる。だからこそ、地域がつながっているのだと思います。

「個の時代」といわれている今、「青年会などの活動の重要性は感じながらも、なかなか参加するまでには至らない」というのが現状です。だからこそ、老人クラブや青年会のような集まりが大切になってくるのかもしれない。その団結力は強く、その力がまちをいきいきとさせています。

受け継いできた地域の誇りをどのように「未来」につないでいくか—今の私たちに問われていることなのかもしれません。